



浸水対策工事の水路は目いっぱい流れ、上流側の止水ゲートも全開にしても、押し寄せてくる水量を制御することはできない状況。しかし、もしもあの工事が出来ていなかったら、もっと悲惨になっていたかも知れない。(7月2日午前6時撮影)

またもや大水害に

6月29日から降り始めた雨は、時折激しさを増しながら降り続けていました。天気予報では「山口県に線状降水帯の発生が予測される」とのことでした。

6月30日の夕刻から雨は激しさを増

してきました。関係者は何度も何度も様子を見に行きました。夜9時には水路は安定して流れていました、出来たばかりの浸水対策水路に、音を立てて吸い込まれる水の流れにひとまず安心したのです。しかし、

その後、深夜になつて雨は激しさを増し、結果的に今まで無いような激しい集中的な雨になりました。

夜中に次々と送

られてくる「防災エリアメール」、けたたましい救急車、消防車の音。午前3時に現場に駆けつけてみると、平成21年の水害と同じ状況になっていました。実際には当地区を流れている九田川に



元高山造園の東側の沈砂池に大量の土砂がたまり、溢れ出た水が通路を破壊。沈砂池の土砂を除去

地域の大事は地域のみんなで協力

7月2日の朝、急遽大雨被害の地域内清掃が実施されました。たくさんの方の参加をいただきました。中には家族でご参加の方もおられました。

農事組合法人八方原の関係者は農業機械の倉庫の関連、消防組は水路の土砂の除去、一般の方は市道や農道の周辺清掃を行いました。

1班の個人の住居や事業所などは、こうした地域の作業には参加をお願いしていません。



「ここまで水が来た」一般の藤田貢さん。ご自宅も辛うじて床上までの浸水は免れたとのこと

ハイテク田植え機の活躍

田植えの最盛期を迎えました。農事組合法人八方原では、田植えを3期に分けています。早生の5月の下旬からはじまり、中手が6月中順、最後が下旬に行われます。

中手は一番面積が広く人手も必要に



苗箱と肥料の積み込みは人力に頼るしかない



田植え機の前方にある高く上がった部分がGPSアンテナ、直進やターンの細かい設定も必要

なります。今年は主力のメンバーに病気がやけ人が出て、調整に苦労されていましたが、最新鋭の田植え機の間もあって、ほぼ予定通りの手順で作業がすんだようです。

植えられた稲の様子に気づかれた方もあるかもしれませんが、とても真っすぐに植えられています。直線アシストサポートなどハイテク装備です。

コンパクトな夏のイベントを8月5日に

自治会内の各団体の意見を聞く会議「八方原振興会議」が開かれました。

浸水対策工事の状況の報告、「夏のふれあい盆踊り」の開催についてなどが話し合われましたが、開催については結論に至りませんでした。その後の

調整で花火と慰霊祭を中心にした子ども向けで行うこととなりました。

また委員から「犬の相撲大会」の開催については事前に知らせて欲しいという要望、三角公園の壊れたトイレの撤去の意見などが出ました。

市道公有地の除草清掃を班別に作業

市道（八方原中線・八方原森下線）と公有地の除草清掃作業が6月18日に行われました。

この作業については総会において、説明が十分ではないという指摘がありました。参加者に作業場所の案内を作成して配布できるように予定しましたが、配布が間に合いませんでした。

班別の参加人数と草刈り機などの内容が掴めないと、作業分担が決められないためにこうした事態が起きています。今後は集計時間に余裕を持てるよ

うにしてまいります



範囲が広いので移動しながらの作業（5班）

お米はこぎやって植えられるのか

6月20日、上郷小学校の2年生が田植え見学にやってきました。この日の作業場所は

西ノ池の西側、歩いてくるにはかなり遠いところ

です。学校から歩いてきますから、距離にすると

2キロメートル以上になります。2年生にとっては厳しい見学になったのではないのでしょうか。

とはいえ田植えを見たことのない児童も少なくありません。田んぼに稲の苗を植えるとは、どんなことをしているのか興味を持ってくれた大成功です。

農事組合代表の杉山さんが、お米のことや育てる苦労などを話していただきました。昨年の好成绩だった麦つくりのお話もありました。



杉山さんの話を聞く小学生